

日本健康心理学会第34回大会 準備委員会

特別講演

演題：結核とヘルス・コミュニケーション

秋篠宮 紀子（結核予防会・お茶の水女子大学）

司会：大森 美香（お茶の水女子大学・東北大学）

結核は、現在でも世界で年間約 1000 万人が罹患し、約 140 万人が死亡している感染症である。日本では、結核患者に占める高齢者の割合が大きく、若年結核患者では、外国生まれの割合が増加傾向にある。結核対策には、BCG ワクチン接種による予防、エックス線検診による早期発見・早期治療、患者の服薬支援などがある。このような対策を更に効果的に進めるために、個人の健康行動に関わる要因を明らかにすることが重要であり、そのために健康心理学の果たしうる役割は大きい。

講演では、日本と世界の結核の現状を概説した後、結核の予防行動に関連する要因の調査研究の一例を紹介する。続いて、結核をめぐるヘルス・コミュニケーションの実例として、結核患者の服薬支援、外国生まれの患者への「やさしい日本語」による言語支援、結核から回復した当事者による啓発活動、地域で活動するヘルス・ボランティア団体である結核予防婦人会の活動などを紹介し、結核予防活動における意義を論じる。